

令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

別添1

【教育】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント
<p><中期目標1> 地域に根ざす国立大学として、グローバル化社会における地域創生を担う人材の中核的育成拠点となり、高い国際通用性を有する教育課程のもと、地域一体型教育を推進し、ミッションの再定義で掲げた各分野の人材を含め、優れた高度専門職業人を育成する。</p>	<p>1-① グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の人材の育成が学位プログラムとして担保されるよう、体系的で国際通用性を有する教育課程や個々の科目の目標等を平成30年度までに整備し、周知・運用する。その一環として、一体的に策定したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーについて、整合性などを継続的に見直し、必要に応じて適切な改正を行う。さらに、教育の国際通用性を検証するため、全学的な教学マネジメントのもと、教育成果の検証を含めた内部質保証、国際アドバイザーによる外部評価等を実施する。大学院課程では、第3期中期目標期間中に、教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組と質の高い学位プログラム構築を行う。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント） ・現況調査において指摘されている点があり、（すでに対応中であるが）年度内に対応を完了させる必要がある。</p>
	<p>1-①-1 カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに求められる要件を整理したうえで、策定済みの各ポリシーの内容及び一体性を検討、必要な改定を実施する。その後も、継続的に見直す。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-1-1 (1-①-1-1-1～5)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント） ・現況調査において、アドミッション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに関して「3ポリシーの策定及び運用に関するガイドラインに示されている内容を十分明文化していない」との指摘を受けた部局があり、対応が必要である。</p>
	<p>1-①-2 カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、教育課程が学位プログラムとしての体系性・国際通用性を有しているか検証し、必要な改善を（各部局の改組等にもあわせて）行い、周知・運用する。その後も継続的に見直す。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-2-1 (1-①-2-1-1～7)</p>	<p>（検証結果） 進捗が不十分である</p> <p>（コメント） ・医学部、工学部では分野別評価の受審準備が着実に進んでいる。 ・旧KPIの「個々の科目の目標の整備状況」と関連したこととして、体系性を示すカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの整備状況はどうか。 ・(大学院に関してであるが) 現況調査において、「教育課程の編成が体系性を有していることが確認できない」との指摘を受けた部局があり、対応が必要である。</p>
	<p>1-①-3 教育の国際通用性を検証するため、2-①の全学的な教学マネジメントの下、教育成果の検証を含めた内部質保証、海外大学ベンチマーキング（毎年）、国際アドバイザーによる外部評価（3年毎）等を実施する。</p> <p><副学長（教育・学生）> <副学長（国際）></p>	<p>1-①-3-1 1-①-3-2 (1-①-3-1-1～6)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント） ・各部局では自己点検評価、外部評価を進めている。 ・国際地域学部では、交換留学の代替措置として、協定校を含む海外大学のオンライン授業プログラムが19件用意され、学生がその中から希望するものを選択して受講できるシステムが設けられている。</p>
	<p>1-①-4 教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組を行い、それにより質の高い学位プログラムを実現する。</p> <p><教育学研究科> <工学研究科></p>	<p>1-①-4-1 (1-①-4-1-1～2)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・それぞれの研究科の改組による典型的な成果を示していただきたい。</p>
	<p>1-①-5 グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の育成状況を確認するため、養成人材像およびディプロマ・ポリシーで謳われた能力等（地元企業等の求める職業能力を含む）の涵養状況を検証する。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-5-1 (1-①-5-1-1～6)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント） ・全体として概ね良好な進捗を示しているが、「検証」の実施とその結果を示せるようにすることが望まれる。</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

1-②	<p>高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるため、教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上にする。また、教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・まずは、「能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上」を達成いただきたい。 ・全体として概ね良好な進捗を示しているが、「検証」の実施とその結果を示せるようにすることが望まれる。</p>
1-②-1	<p>教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上にする。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-②-1-1 (1-②-1-1-1～6)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント） ・最終的に「能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上」を達成いただきたい。 ・アクティブ・ラーニングの比率を6割以上にするという、目標はすでに達成されているが、効果の検証を予定している部局は今年度中にそれを終了することが望まれる。</p>
1-②-2	<p>教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。</p> <p><教育学部></p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力の涵養状況」を検証いただきたい。 ・年度末には学習効果の検証結果を示せるようにすることが望まれる。</p>
1-②-3	<p>高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などの修得状況を検証する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>	<p>1-②-3-1 (1-②-3-1-1～5)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・年度末には「修得状況の検証」結果を示せるようにすることが望まれる。</p>
1-③	<p>学生の主体的な学びの確立に向け、修学環境を維持・向上させるとともに、学習管理システムやシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第3期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上させる。また、学士課程では米国型 Grade Point Average（GPA）制度（平成29年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント） ・最終的に「学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上」を達成いただきたい。 ・現況調査において指摘されている点があり、（すでに対応中であるが）年度内に対応を完了させる必要がある。</p>
1-③-1	<p>図書館、ICT環境、自主的学習環境、学生の交流拠点などのハード面の修学環境について、利用状況や満足度を検証しつつ、維持・向上させる。</p> <p><高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>1-③-1-1 (1-③-1-1-1～7)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・学生無線 LAN 利用での簡易登録の実施に伴い、一時的にだが、手続きが簡素かされ、指導教員等との対面機会も減らせ、コロナ対策、ハイブリッド授業への一助となっている。 ・全体として計画は進捗しているが、最終年度の利用状況や満足度を検証することが望まれる。</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	1-③-2 学修管理システム（LMS）やシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第3期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上させる。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞	1-③-2-1 (1-③-2-1-1～6)	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・最終的に「学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上」を達成いただきたい。
	1-③-3 学士課程では米国型 Grade Point Average（GPA）制度（平成29年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞	1-③-3-1 (1-③-3-1-1～6)	(検証結果) 進捗状況が不十分である (コメント) ・(大学院に関してであるが) 現況調査において、「成績評価の分布が明らかにされていることが確認できない」との指摘を受けた部局があり、対応が必要である。 ・(大学院に関してであるが) 現況調査において、成績評価基準に関して「評語を適用する際の科目の到達目標を考慮した判断の基準について組織として定められていることが認められない」との指摘を受けた部局があり、対応が必要である。
1-④	教員養成に係る学部、教職大学院と附属学園の三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施、他大学と連携した教職大学院の共同大学院化や国内外のネットワークの拡大など、教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。 ＜教育学研究科＞		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・共同大学院化自体は現況調査でも高く評価されているが、同時に教育課程の体系性や成績評価基準についての指摘を受けており、今後改善について検討することが必要である。
	1-④-1 教員養成に係る三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施 ＜教職大学院＞	1-④-1-1	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント)
	1-④-2 他大学と連携した教職大学院の共同大学院化 ＜教職大学院＞	1-④-2-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・現況調査において、教育課程の体系性や成績評価基準についての指摘を受けており、改善する必要がある。
	1-④-3 国内外のネットワークの拡大 ＜教職大学院＞	1-④-3-1	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・具体的な評価指標が達成されている。
	1-④-4 教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。 ＜教職大学院＞	1-④-4-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・「全学総合教職開発本部の創設」は優れた成果としてあげることはできな

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			いのか。（安田）
1-⑤	子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築し、本学で蓄積中の先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善や、附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備、いじめ対策等生徒指導推進事業の推進、インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示を行う。 ＜教育学研究科＞		（検証結果） 進捗状況が不十分である （コメント） ・5つの細分化された計画のいずれもが、進捗状況に問題を抱えているように見えます。 ・一部の計画において、期末に目標を達成できるのかが必ずしも明らかになっていない。
	1-⑤-1 子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築 ＜教職大学院＞	1-⑤-1-1	（検証結果） 進捗状況が不十分である （コメント） ・「医教連携の教育研究体制の構築」までにはまだ距離があるように思われます。
	1-⑤-2 先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善 ＜教職大学院＞	1-⑤-2-1	（検証結果） 進捗状況が不十分である （コメント） ・「発達障害についての教員養成カリキュラムの改善」までにはまだ距離があるように思われます。 ・年度末にはカリキュラムがどのように改善されたかを示せるようにすることが望ましい。
	1-⑤-3 附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備 ＜教職大学院＞	1-⑤-3-1	（検証結果） 保留 （コメント） ・「附属学園を担当する特別支援教育コーディネーター（本学准教授で附属学園兼務）を採用し、本学の小児科医師と協働して支援活動を実施している。」とありますが、それが「医教連携による特別支援教育コーディネーター研修を行う。」との計画から見て十分なことなのかどうか判断できないため保留としています。
	1-⑤-4 いじめ対策等生徒指導推進事業の推進 ＜子どものこころの発達研究センター＞	1-⑤-4-1	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・今年度から新たに設置された「総合教職開発本部」の医教連携を実現する部門であるインクルーシブ教育部門の兼任教員として、子どものこころの発達研究センターの友田教授と松崎教授が参加しており、医教連携体制が強化されている。 ・「自己肯定感向上に資する教育プログラム」が完成したのかどうか読み取れません。また、「地域への社会還元を目的として、公開講座等を実施し、事業の成果を分かりやすい形で市民に提示」に該当する取り組みが「子どものこころの発達研究センター10周年記念講演会」だけだとすると、それで十分なのでしょうか。 ・全体として進捗しているが、「平成32年度（2020年度）の事業終了時まで

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			プログラムを完成させる」という記述について、完成したのかが明記されていない。
	1-⑤-5 インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示 ＜教職大学院＞	1-⑤-5-1	（検証結果） 進捗状況が不十分である （コメント） ・計画に沿って、「インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修」を実施いただきたい。 ・「インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示を行う」について「検討を行っている」となっていますが、現時点でその状況だとモデルの提示に至るのは難しいように思います。 ・期末に「先進的モデルの提示」を実現できるのかが明らかになっていない。
	1-⑥ 国際地域学部を中心に、地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材を育成するため、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。さらに、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 ＜全学教育改革推進機構＞ ＜国際地域学部＞		（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・コロナ禍の中で、交換留学等の教育に係る国際交流を積極的に進めている。
	1-⑥-1 国際地域学部を中心に、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。 ＜国際地域学部＞	1-⑥-1-1 (1-⑥-1-1-1～4)	（検証結果） 進捗状況が良好である （コメント） ・交換留学の代替措置として、協定校を含む海外大学のオンライン授業プログラムが 19 件用意されている。 ・COVID-19 の影響が長引いた場合に、学生の海外派遣に関してどのように対応するのかを明確にすることが望ましい。
	1-⑥-2 その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 ＜全学教育改革推進機構＞ ＜国際地域学部＞	1-⑥-2-1 (1-⑥-2-1-1～4)	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・交換留学制度について、各部局ではコロナ禍の状況下様々な取組みが実施されている。 ・GPA 制度については、今後とも国内の他の大学の状を注視し、必要な場合にはあらためて学内で統一的な制度の導入について検討する余地を残しておくことが望ましい。
	1-⑦ 教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援するため、学びやすい教育システム等を整備し、第2期中期目標期間末と比較して、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを増加させる。 ＜COC 推進機構＞		（検証結果） 進捗状況が概ね良好である
	1-⑦-1 「地域の理科教育の核となるコアサイエンスティチャー(CST)養成プログラム」、「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成」、「産業現場に即応する実践道場」、「履修証明プログラム」などにおいて、社会人が学びやすい教育システムの整備を行い、教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援する。また、関係者の意見聴取や満足度の検証を行うとともに、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを第2期中期目標期間末よりも増加させる。 ＜各部局＞	1-⑦-1-1 (1-⑦-1-1-1～5)	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・令和2年度文科省事業「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」の採択を受け、「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成）」を開始するなど、リカレント教育が進んでい

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リカレント推進機構を設置し、リカレント教育の全学的な取組」について、優れた取組みとしてあげることはできないか。 ・全体的には様々なプログラムが精力的に実施されているが、一部のプログラムについて、第2期末と比較して科目数や受講者数が増加したのかどうかは明らかではなく、第3期末にはこの目標が達成されたのかどうかを確認する必要がある。
<p><中期目標 2> グローバル高度専門職業人および地域活性化の中核となる人材の育成拠点として、教育の国際通用性の確保・向上や地域一体型教育の先導的推進に係る取組みなど、質の高い教育を実現するための教育実施体制を整備し運用する。</p>	<p>2-① 質の高い教育を実現するため、平成 28 年度に再編する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用し、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。さらに、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備・運用するとともに、国際アドバイザー等による本学の教育全般の「国際的な水準」の検証を行い、教育の国際通用性や学位の質を保証する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>	
		<p>2-①-1 全学的な教学マネジメントのもと、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備する。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-①-1-1 (2-①-1-1-1~3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
		<p>2-①-2 1. で整備した教育の質保証システムを運用して教育改善に活かす（PDC A）。その一環として、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。その結果質の高い教育が実現されるよう、平成 28 年度に発足する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用する。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-①-2-1 (2-①-2-1-1~3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・「教育交流調整会議」の在り方について、「全学教育改革推進機構 機構長補佐会議」で検討する予定である、とありますが、その検討を行ったとしても、“「福井大学における「教教分離」を活用したカリキュラム・マネジメントに関する基本方針」に基づき、教員交流・活動を進める。” までにはまだ距離があるように思います。 ・「教員交流調整会議のあり方について検討する」とあるが、難題であると思われることから、この計画に取り組むのであれば、（実現可能性を含め）早急に検討を進める必要がある。</p>
		<p>2-①-3 1. の一環として、国際アドバイザー等により、本学の教育全般について「国際的な水準」の検証を行う。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-①-3-1 (2-①-3-1-1~3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
	<p>2-② 学生の社会的・職業的自立に向けた教育実施体制整備の一環として、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組みを一層推進することにより、学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持する。このため、学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証を行う。</p> <p><キャリアセンター></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・十分な取組みと成果が認められるが、最終的に「学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持頂きたい。</p>	
	<p>2-②-1 インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組み</p>	<p>2-②-1-1 (2-②-1-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>を一層推進する。 ＜キャリアセンター＞</p>		<p>（コメント） ・ COVID-19 の影響でインターンシップが必ずしも十分実施できない状況に関して、現状と今後の見直しを確認する必要がある。</p>
	<p>2-②-2 学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等により、本学卒業（修了）生が社会的・職業的自立に必要な資質・能力等を備えているか、組織的に検証を行う。 ＜キャリアセンター＞</p>	<p>2-②-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・「Skype や電話、メールを利用した就職支援を積極的に行っており、現時点での学生の満足度は高い水準を維持している」とされ、成果が出ている。なお、学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」について引き続き調査願いたい。 ・今年度以下以下の計画が確実に実施されるのか、読み取れません。 “実践的なキャリア教育による「社会的・職業的自立に必要な資質・能力等の涵養」の状況について、卒業（修了）生および就職先関係者への調査を行う（含、満足度調査）。” ・現在、3年ごとにキャリア支援室が卒業生の資質・能力に関する企業向けのアンケートを行っており、次回調査は 2022 年夏となるため、現状では 2019 年の調査が最新となる。第 4 期も含め、今後の評価のスケジュールを考えた場合、このサイクルでよいかを再確認する必要がある。</p>
	<p>2-③ 大学のグローバル化を促進させる教育実施体制整備の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等によって、国際的に通用する教務システムを整備する。特に国際地域学部はこれらの取組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 ＜全学教育改革推進機構＞ ＜国際地域学部＞</p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・できたこともできなかったも（第 3 期末までにはできそうにないことも）ありますが、検討の結果無理なこと以外はやってきていると判断できますので、「概ね良好」だと思います。</p>
	<p>2-③-1 カリキュラム・マネジメント（2-①-2）の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等を行い、（1-③-3 などの取組とあわせ）国際的に通用する教務システムを整備する。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞ ＜国際地域学部＞</p>	<p>2-③-1-1 （2-③-1-1-1～6）</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・柔軟な学事暦を広く導入することはできていませんが、コロナ後を見据えて中期的に検討を継続すればよく、第 3 期末までに無理をする必要はないと思います。「国際的に通用する教務システム」について第 3 期末までに総括しておくべきかと思います（“国際的に通用する教務システムって結局何？”という状態を第 4 期に持ち越さない）。</p>
	<p>2-③-2 国際地域学部はこれらの取組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞ ＜国際地域学部＞</p>	<p>2-③-2-1 （2-③-2-1-1～6）</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・検討の結果無理なこと以外はやってきていると判断できます。</p>
<p>＜中期目標 3＞ 学生と教職員の良好な関係のもと、ステークホル</p>	<p>3-① 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用し、ステークホルダーの高い満足度を維持する。このため、学生等への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証を行う。特に、就職先から高く評価されている就職支援体制を基盤として、積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね 96%前後の高い就職率を維持する。 ＜高等教育推進センター（学生支援部門）＞</p>		<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント） ・就職率 14 年連続一位と十分な成果が上がっており、最終的に、概ね「96%前</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

ターの満足度が 高い修学支援、生 活支援、留学支援 等とともに、高い 実績を持つ就職 支援を推進する。	3-①-1 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用する <高等教育推進センター（学生支援部門）>	3-①-1-1 (3-①-1-1-1~8)	後の高い就職率」を維持頂きたい。 （検証結果） 進捗状況が良好である （コメント） ・新型コロナウイルス感染症に係るきめ細かい学生支援が実施されている。特に、本学独自なものを強調頂きたい。
	3-①-2 学生支援体制について学生等への意見聴取を継続的に行い、組織的に検証を行う。 <高等教育推進センター（学生支援部門）>	3-①-2-1 (3-①-2-1-1~5)	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・学生への意見聴取の内容を基に、部局等において改善について検討及び取組みがなされており、PDCA サイクルが機能している。 ・「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」について、2020 年度には COVID-19 の影響下で簡易版の調査が行われただけであり、次回の「学生生活実態調査」は 2022 年であることから、前者については今年度中に行う必要があると考えられる。
	3-①-3 積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね 96%前後の高い就職率を維持するとともに、就職先での高い評価を得る。 <キャリアセンター>	3-①-3-1	（検証結果） 進捗状況が良好である （コメント） ・「学生の満足度はおおむね良好」となっており、十分な成果が窺える。 ・高い就職率は維持されているが、「就職先での高い評価」をどのようにして確認するのが、計画からは必ずしも明らかではない。
	3-② 在学生の留学や外国人留学生の受入を積極的に進めるために、留学の情報提供、修学・生活・就職にわたる総合的できめ細かい支援を行う。そのために、留学関係事務の改善や留学生受入れの入試改革などを行うとともに、留学生用住居を拡大する。 <国際センター運営委員会>	3-②-1-1 (3-②-1-1-1~6)	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・コロナ禍の中、様々な工夫された取組みが実施されている。 ・留学生対の入試に係る取組みが複数あるのは読み取れますが、それらが「留学生受入れの入試改革」という言葉の響きにマッチするような取組みなのか、引っ掛かります。 ・2019 年度までは全体として順調な進捗であったが、COVID-19 の流行という予想外の事態が発生したことから、状況の変化を常時把握しつつ、今後の対応を慎重に検討していく必要がある。
3-②-1 外国人留学生の受入を積極的に進めるため以下の取組を実施する。 (1)短期留学生、正規留学生とリクルートする対象を明確にした上で、それぞれのグループに対しどのような学術プログラムが提供されているか、その特徴と強み、なぜ福井大学で学ぶべきなのかなど、情報提供を行う。 (2)修学、生活、就職に及ぶ総合的且つきめ細かい支援体制を整備、運用する。同時に、国際通用性のある入試制度の導入や、留学生用住居の拡充、就職など、それぞれの支援体制の整備、充実を図る。 <国際センター運営委員会>	3-②-1-1 (3-②-1-1-1~6)	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・外国人留学生については、COVID-19 の今後の影響について注視しつつ、さらにきめ細かい支援が必要になると思われる。	

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>3-②-2 在学生の海外留学を積極的に進めるために、学術交流協定校の学術プログラム、留学費用、課外活動、施設、その他のサービス等の情報提供や、留学前準備、留学中の履修・生活・危機管理など支援体制を充実させる。</p> <p><国際センター運営委員会></p>	<p>3-②-2-1 (3-②-2-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・現在、本学学生の海外への派遣は停止されているが、今後再開する場合には、かなり慎重な準備とリスク管理が必要になると思われるので、その点を十分検討しておく必要がある。</p>
<p><中期目標 4> 多様な志願者や社会ニーズ等に適切に対応するとともに、新たな高大接続入試の創出に繋がる高大連携等を推進し、知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法により、多様な学生の受入れを進める。</p>	<p>4-① 一体的な3ポリシーのもと、達成度テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。さらに、新たな高大連携のあり方およびそこの学習成果に基づく多様な能力を多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行うとともに、それを通して高大接続入試、特に個別選抜の改善に資する。国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部での導入を検討する。</p> <p><入学試験委員会></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・高大接続 AO 入試の他学部での導入拡大は進んでいるのか。また、他学部での導入に際して、他の入試枠での入学生に比べて、入学生は優れているのか検証願いたい。</p>
	<p>4-①-1 達成度テスト（仮称）や大学入学希望者学力評価テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。</p> <p><入学試験委員会></p>	<p>4-①-1-1 (4-①-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
	<p>4-①-2 新たな高大連携のあり方を検討・実施し、高大連携教育によって生徒が得た学習成果や多様な能力をルーブリック等により多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行う。</p> <p><入学試験委員会></p>	<p>4-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・今後の入試で利用できる標準的なルーブリックを、第3期の取組の結果として提示できるとよいと思います。</p>
	<p>4-①-3 2. で開発した評価手法を取り入れた高大接続入試（特に、個別選抜）を実施する。特に、国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部でもその特性に合わせて導入を検討する。</p> <p><入学試験委員会></p>	<p>4-①-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・「個別選抜」が「個別学力検査」の意味であるとする、「2. で開発した評価手法を取り入れた個別学力検査」の実施が確認できないことから保留とした。ただ、個別学力検査でそれをやることは現実的なのだろうか（計画に無理はないか?）。 ※入試の用語に「個別選抜」という固有名詞はあるのでしょうか。中期計画の文章の中で使う限りはどう書いてもさほど支障はないと思いますが、より対外的な文書（例えば AP）の中では注意したほうがよいように思います。（入試絡みの言葉の使い方に関しては、文科省の文書「令和〇年度大学入学者選抜実施要項」を参照するのが無難なように思います。）</p>
	<p>4-② 志願者・入学者の状況やアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行うとともに、必要に応じて入学定員の見直しを行う。さらに課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させるとともに、初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。</p> <p><入学試験委員会></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・実施状況をみると、入試に係る取組は十分であるが、計画の趣旨の1つである教育課程の点検・改善にまで踏み込めていないように思われる。この計画は、入試の関係者と教育課程の関係者の連携のもとで行われるべきと思われるが、教育課程サイドの関与が弱かったのではないかと。両方で情報を共有する仕組みが今後必要だと思われる。</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>4-②-1 志願者や入学者の状況、選抜方法や教育課程とアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行う。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-1-1 (4-②-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・教育課程の継続的改善の点で不十分だと思います。(山田)</p>
	<p>4-②-2 必要に応じて入学定員の見直しを行う。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-2-1 (4-②-2-1-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
	<p>4-②-3 課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させる。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
	<p>4-②-4 初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-4-1 (4-②-4-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・入試戦略プロジェクトチームによる成果を期待したい。 ・アドミッション・ポリシーに沿った学生が確保できているかの検証に関しては、今回コロナ禍でアンケートを中止したとのことですが、そうした間接評価だけでなく、1年生の GPA 分布の調査などより直接的な評価もあり得るのではないのでしょうか。</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

別添 1

【研究】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 国際・国内研究拠点の形成を目指し、先端的画像医学研究、遠赤外領域開発・応用研究、原子力安全・危機管理研究、教師教育研究などを学内横断的かつ重点的に推進する。</p>	<p>1-① 本邦初の分子イメージング部門を擁し、世界最先端画像医学研究拠点の一つである高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施する。これらにより、生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第2期中期目標期間より 20%以上増加させる。 <高エネルギー医学研究センター></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)</p>
	<p>1-①-1 (目標を実現するための推進方策) 高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施する。 <高エネルギー医学研究センター></p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3 1-①-1-4 1-①-1-5 1-①-1-6</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)</p>
	<p>1-①-2 (中期計画に記載の評価指標) 生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第2期より 20%以上増加させる。 <高エネルギー医学研究センター></p>	<p>1-①-2-1 1-①-2-2 1-①-2-3 1-①-2-4 1-①-2-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・1-①-2-2 の国内・国際共同研究実施件数が目標値(基準値に比して 20%以上増加) と比べ、どのような状況なのか記載がないため、判断できない。 1-①-2-3 の英語論文件数および論文の被引用数が目標値(基準値に比して 20%以上増加) と比べ、どのような状況なのか記載がないため、判断できない。 1-①-2-4 の受賞実績が目標値(基準値に比して 20%以上増加) と比べ、どのような状況なのか記載がないため、判断できない。</p>
	<p>1-② 我が国唯一で世界的にも優れた高出力遠赤外光源ジャイロトロンの研究開発実績を踏まえ、公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップの主催等を通して、新しい学術研究としての遠赤外分光・計測研究、遠赤外領域の先端科学研究および高出力遠赤外技術開発研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数を第2期中期目標期間より 20%以上増加させる。 <遠赤外領域開発研究センター></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)</p>
	<p>1-②-1 (目標を実現するための推進方策) 公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップを開催する。 <遠赤外領域開発研究センター></p>	<p>1-②-1-1 1-②-1-2 1-②-1-3 1-②-1-4 1-②-1-5 1-②-1-6</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・感染症の世界的蔓延により不可抗力で実施が困難となっている取り組みを除いては「進捗状況は良好である」と判断できるレベルにあると思われます。 ・コロナ禍による海外研究者の招聘の中止はやむをえないと判断。 ・(クロス・アポイントメントにより採用した外国人教員数)【(旧評価指標：H28年度上期まで)は達成が難しいと思われるが、代わりに集中講義で人事交流を図っている。</p>
	<p>1-②-2 (中期計画に記載の評価指標) 学術誌への英語論文掲載数を第2期より 20%以上増加させる。 <遠赤外領域開発研究センター></p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2 1-②-2-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・令和3年度の論文数はやや低調であるが前年度までに目標値はすでに達成しているため。</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント（様式）

				<ul style="list-style-type: none"> ・1-②-2-1 ②論文の被引用数に関する記載がないため、判断できない。 ・1-②-2-2 第3期の国内・国際共同研究実施件数が、目標値（基準値に比して20%以上増加）と比べ、どのような状況なのか記載がないため、判断できない。 ・1-②-2-3 第3期の受賞実績が、目標値（基準値に比して20%以上増加）と比べ、どのような状況なのか記載がないため、判断できない。
1-③	「安全と共生」を基本として平成21年4月に設置された附属国際原子力工学研究所を中心に、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップの開催等を通して、軽水炉および高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減等に関する先進的研究を一層推進し、国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第2期中期目標期間より20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。 ＜附属国際原子力工学研究所＞			<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>
1-③-1	（目標を実現するための推進方策） 公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップを開催する。 ＜附属国際原子力工学研究所＞	1-③-1-1 1-③-1-2 1-③-1-3 1-③-1-4		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・海外研究機関との相互派遣や国際ワークショップ開催等に関してはコロナ禍のため困難と判断</p>
1-③-2	（中期計画に記載の評価指標） 国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第2期より20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。 ＜附属国際原子力工学研究所＞	1-③-2-1 1-③-2-2 1-③-2-3 1-③-2-4 1-③-2-5		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・1-③-2-2 で国内共同研究が目標値に対し、164%達成しているのは顕著な成果といえる。一方で、1-③-2-3 の英語論文掲載数、被引用数については、達成が難しいと思われる。</p>
1-④	教師の学校内における職能成長を支える制度構築が求められる今日、全国に先駆け学校拠点方式の教職大学院を設置した実績を踏まえ、知識基盤社会において求められる主体的・協働的な学びを中心とする学校を実現する力を持った教師を養成することを目指し、全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進して、福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。 ＜教育学研究科＞			<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・1-④-1 および 1-④-2 に記載のとおり。（中山）</p>
1-④-1	（目標を実現するための推進方策） 全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進する。 ＜教育学研究科＞	1-④-1-1 1-④-1-2 1-④-1-3 1-④-1-4 1-④-1-5 1-④-1-6 1-④-1-7 1-④-1-8 1-④-1-9		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・1-④-1-9 を除き、「進捗状況は良好である」と判断できるレベルにあると思われる。1-④-1-9 については感染症の世界的蔓延により不可抗力で実施が困難となっているものですので、目的を考慮しながら代替のアクションを示すなどの対策を示していけば「進捗」としても評価していけると思います。 ・1-④-1-2 に記載されている「実践省察型の更新制講習（オンライン）およびそれとも連動する県のクロスセッション型世代交流研修」については、特筆すべき取組といえる。一方で、1-④-1-3 の「評価指標（教員の60%以上が附属学校の教育活動に参画する）」に対し、進捗状況（中間）の記載が回答になっていないため、修正してほしい。また、1-④-1-9 は達成が難しいと思われる。</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント（様式）

	<p>1-④-2 （中期計画に記載の評価指標） 福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。 ＜教育学研究科＞</p>	1-④-2-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・具体の取組に上げられていた【戦略1】の評価指標①④⑤について大部分を完了した。 ・海外教員研修受け入れによるネットワーク拡大数のみ、評価指標を達成できていないが、他は達成している。</p>
<p><中期目標2> 科学技術の発展に寄与する学術研究や地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。</p>	<p>2-① 医学部・同附属病院では、地域の直面する少子高齢化や過疎化に対応するため、がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第2期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第2期中期目標期間より20%以上増加させる。 ＜医学部・医学系研究科＞</p>		<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント） ・データが示されるまで検証は待ちたいと思います。 ・2-①-1および2-①-2に記載のとおり。</p>
	<p>2-①-1 （目標を実現するための推進方策） がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進する。 ＜医学部・医学系研究科＞</p>	<p>2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3 2-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント） ・具体的な実績が不明のため判断できない。 ・具体的な記載がないため、判断できない。</p>
	<p>2-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第2期よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第2期より20%以上増加させる。 ＜医学部・医学系研究科＞</p>	<p>2-①-2-1 2-①-2-2 2-①-2-3 2-①-2-4</p>	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント） ・データが示されるまで検証は待ちたいと思います。 ・記載されている情報が「がん、脳、アレルギー・免疫の分野」に絞った件数であるのかが不明。 ・2-①-2-2の学会発表数、および2-①-2-4の受賞実績数について、記載がないため、判断できない。</p>
	<p>2-② 前身の福井高等工業学校設置から90年以上の間、工学の幅広い分野で研究を遂行し、地域および我が国の産業力強化に貢献してきた歴史を踏まえ、工学分野の研究を強化し、工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第2期中期目標期間よりも増加させる。特に、ミッションの再定義で重点化した繊維・機能性材料分野では第2期中期目標期間より20%以上増加させる。この目標を達成するために、メリハリのある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等により、工学分野で優れた学術基盤研究・発展研究の推進、重点分野の育成を行う。 ＜工学部・工学研究科＞</p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>
	<p>2-②-1 （目標を実現するための推進方策） メリハリある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等を行う。 ＜工学部・工学研究科＞</p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2 2-②-1-3 2-②-1-4 2-②-1-5</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・2-②-1-5については、対面実施が困難であった状況を鑑みた進捗率が示されているが、リモートおよびより少人数でのコミュニケーションの機会創出などを通して、実質的には実施されてきている部分もあることから、今後の活動計画立案と合わせてある程度進捗していると判断しました。 ・2-②-1-5については、早急に実施しなければ、評価指標に記載されている「定期的に行われていること」は達成できないと思われる。</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント（様式）

	<p>2-②-2 （中期計画に記載の評価指標） 工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第2期よりも増加させる。 特に、ミッションの再定義で重点化する繊維・機能性材料分野では第2期より20%以上増加させる。 ＜工学部・工学研究科＞</p>	<p>2-②-2-1 2-②-2-2</p>	<p>（検証結果） 保留 （コメント） ・R3年度のデータが不明のため ・具体的な論文数が記載されていないため、判断できない。</p>
<p>＜中期目標3＞ 社会のニーズを踏まえ、本学の特色を生かした研究成果を社会に還元する。</p>	<p>3-① 福井方式として認知された産業活性化活動を進めてきた産学官連携本部を中心に、民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築し、地域・社会の発展に資する産業や豊かなくらしに関わる共同研究およびグローバルに訴求力のある知的財産の継続的創出を推進し、特許活用率および県内企業との共同研究割合を第2期中期目標期間よりも増加させる。 ＜産学官連携本部＞</p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント）</p>
	<p>3-①-1 （目標を実現するための推進方策） 民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築する。 ＜産学官連携本部＞</p>	<p>3-①-1-1 3-①-1-2 3-①-1-3 3-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・超小型衛星の完成はとくに優れた取組としてアピールできるのではないのでしょうか。 ・3-①-1-1の対話回数は評価指標の360件を達成できるのか不明。3-①-1-2の知財創出・活用状況、3-①-1-3の地域専門人材コンソーシアム人数、ILF事業実施件数の記載がなく、相対的な判断ができない。</p>
	<p>3-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 特許活用率および県内企業との共同研究割合を第2期よりも増加させる。 ＜産学官連携本部＞</p>	<p>3-①-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント）</p>
<p>＜中期目標4＞ 研究活動の高度化および効率化のために、研究の体制および環境を整備する。</p>	<p>4-① 国際的な共同研究および研究者交流を推進するとともに、新たな学問領域の創生や社会的な課題解決のために、国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築し、国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第2期中期目標期間よりも増加させる。 ＜研究推進委員会＞</p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント）</p>
	<p>4-①-1 （目標を実現するための推進方策） 国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築する。 ＜研究推進委員会＞</p>	<p>4-①-1-1 4-①-1-2 4-①-1-3 4-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・基準となる数値等が不明のため進捗状況に関する判断がやや難しい。</p>
	<p>4-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第2期よりも増加させる。 ＜研究推進委員会＞</p>	<p>4-①-2-1 4-①-2-2 4-①-2-3</p>	<p>（検証結果） 保留 （コメント） ・具体的な数値がまだ提示されていないため。 ・4-①-2-1 国際共著論文数、4-①-2-2 国内大学・研究機関の共著論文数、4-①-2-3 学内の教・医・工間の共著論文数等の記載がないので、判断できない。</p>
	<p>4-② リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等により、研究力を強化し、研究活動を効果的・効率的に推進する。 ＜産学官連携本部＞</p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント）</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント（様式）

	<p>4-②-1 （目標を実現するための推進方策） リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等を行う。 <産学官連携本部></p>	<p>4-②-1-1 4-②-1-2 4-②-1-3 4-②-1-4</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・4-②-1-1のM—UR Aについては、特色ある取組といえる。</p>
	<p>4-②-2 （中期計画に記載の評価指標） — <産学官連携本部></p>	<p>4-②-2-1 4-②-2-2</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・共同研究については、件数は前年度と同程度に維持できているが、受入総額については明確に少ないと判断できます。今後、様々な対策を講じ、年度目標へのアプローチについて一層の努力を要するものと思われます。 ・4-②-2-1の共同研究の獲得額について、対前年度比はマイナスだが受託研究、寄附金を含めたトータルでは+になっているため、概ね良好であると判断した。</p>
<p><中期目標5> 研究水準の向上を図るため、適切な評価を実施する。</p>	<p>5-① IRを用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化して、先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。 <産学官連携本部></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>
	<p>5-①-1 （目標を実現するための推進方策） IRを用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化する。 <産学官連携本部></p>	<p>5-①-1-1 5-①-1-2 5-①-1-3 5-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>
	<p>5-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。 <産学官連携本部></p>	<p>5-①-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

別添 1

【社会貢献】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 地域の知の拠点として地域社会との連携を強化し、地域社会を志向した教育・研究を推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与する。</p>	<p>1-① 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内5大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い、卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立し、ふくい COC+ 事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザーリーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 <COC 推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・FAA による開放科目、ふくい地域創生士等の取り組みに対するアドバイザーリーボードなどの外部評価を実施する必要がある。</p>
	<p>1-①-1 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内5大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・1-①-1-3 について未記入であるが、「ふくい型アプレンティス」プログラムは下半期に期待される。</p>
	<p>1-①-2 ふくい COC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザーリーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・令和元年まで、ふくい地域創生士の授与式と前後して開催していたアドバイザーリーボードに替わるものを令和3年度中に実施する必要がある。 FAA の体制・内容についての外部評価は、本年度実施される大学の外部評価で兼ねられるよう準備が必要と思われる。</p>
	<p>1-② 地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させるとともに、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。また、グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋がるとともに、地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。 <COC 推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
	<p>1-②-1 地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させる。 <COC 推進機構></p>	<p>1-②-1-1 1-②-1-2 1-②-1-3 1-②-1-4 1-②-1-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・福井県による学ぶならふくいの支援を受けた、地域志向科目及び PBL の取り組みについても記述すべきである。 ・1-②-1-1 概ね良好 ・1-②-1-2 概ね良好 ・1-②-1-4 良好。講義の内容に対する肯定的な回答が多かったということで、具体的な割合などがあるとエビデンスとしてもう少し強くなるかと思うのと、もし否定的な内容がある場合、今後の課題・改善点とすべき建設的な内容があれば今後には生かすためにピックアップすることも必要に応じてご検討いただきたい。 ・1-②-1-5 良好</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

<p>1-②-2 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。 ＜COC 推進機構＞</p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2 1-②-2-3</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・1-②-2-1 保留。受講学生数や認定単位数については今後の検証が待たれるということで、現時点では判断しかねる。 ・1-②-2-2 保留。受講学生数や認定単位数については今後の検証が待たれるということで、現時点では判断しかねる。 ・1-②-2-3 良好</p>
<p>1-②-3 グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げる。 ＜地域貢献推進センター＞</p>	<p>1-②-3-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント） ・ひらめきときめきサイエンスに関しては第3期における事業評価に関する記述がみられるが、公開講座や次世代人材育成プロジェクトに関する点については、直近の検証については記載があるが、長期的な展望での検証については特に記述が見られない。コロナの状況もあり、特異な状況ではあるものの、この6年間の評価を行い次期へつなげる検証は必要ではないか。</p>
<p>1-②-4 地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。 ＜地域貢献推進センター＞</p>	<p>1-②-4-1 1-②-4-2</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>
<p>1-③</p>	<p>教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元するとともに、地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。さらに地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させるとともに、福井大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。 ＜COC 推進機構＞</p> <p>1-③-1 教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元する。 ＜広報センター＞</p> <p>1-③-2 地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。 ＜COC 推進機構＞</p> <p>1-③-3 地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させる。 ＜COC 推進機構＞</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント） ・評価指標である大学の WEB, 研究者総覧などの利用数や増加率などが不明</p> <p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・学ぶなら福井の支援を受けた、共同研究や取り組みの成果の HP 等での公開も検討して欲しい</p> <p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・社会貢献に関わる教員の割合 90%以上という指標の中間評価値を示す必要がある</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント（様式）

		<p>1-③-4 福井大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。</p> <p><COC 推進機構></p>	<p>1-③-4-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FAA 参加機関との共同研究，原子力等の地域課題にかかる共同研究の状況が不足・未掲載 ・連携大学との共同研究の実績の増加に向けた具体的な取組などがあれば記載の追記があるとよい。また、原子力に関する件についても何か動きがあれば、記載が必要。
<p><中期目標 2> 地域の教育研究拠点としての機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力関係を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上並びに産業の発展に繋がるイノベーション創出を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献する。</p>	<p>2-①</p>	<p>三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8,000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。そのため、第3期中期目標期間中に、教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。学校教育課程においては、教員養成機能を重視した組織改革を進め、第3期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。</p> <p><教育学部></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の数値は不明であるが、最近の教員就職率，占有率等は，目標に届いておらず，期間中の達成は難しいように思われ，総括の方法と，次期に向けた見直しが必須と思われる。
		<p>2-①-1 三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8,000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。</p> <p><教育学部></p>	<p>2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3 2-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員免許更新制廃止の動きへの準備 <p>拠点校・連携校の目標が達成されて，計画は順調に進捗しているといえるが，逆に付属学校等への福井県からの支援も期待したい。</p> <p>https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/attach/1380622.htm</p>
		<p>2-①-2 教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。</p> <p><教育学部></p>	<p>2-①-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>
		<p>2-①-3 教員養成機能を重視した組織改革を進め、第3期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。</p> <p><教育学部></p>	<p>2-①-3-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>
	<p>2-②</p>	<p>人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。加えて関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。</p> <p><医学部></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>
		<p>2-②-1 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。</p> <p><医学部></p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2 2-②-1-3 2-②-1-4 2-②-1-5</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント（様式）

<p>2-②-2 さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。 ＜医学部＞</p>	<p>2-②-2-1 2-②-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
<p>2-②-3 関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。 ＜医学部＞</p>	<p>2-②-3-1</p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント) ・中間時点では実績がみられないが、年度内に年1回のふくいメディカルネット利用促進会を開催予定とのことで保留と判断した。</p>
<p>2-③ 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成29年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。さらに、知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出に繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 ＜産学官連携本部＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p>
<p>2-③-1 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成29年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。 ＜産学官連携本部＞</p>	<p>2-③-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
<p>2-③-2 知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出につなげ繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 ＜産学官連携本部＞</p>	<p>2-③-2-1 2-③-2-2 2-③-2-3 2-③-2-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・2-③-2-1 地域と共同研究を行う教員数が伸び悩んでいる感がある。学ぶなら福井応援事業の共同研究支援などを積極的に取り入れるための周知に力を入れるなど、必要となる対応策や、解決策について検討が必要ではないか。(小池) ・2-③-2-2 協力会分科会活動に関しての記述が見られない。コロナ禍の影響を受けて実績が得にくい状況かとは思いますが、オンラインなどを活用するなどの方策がとれないか検討が必要ではないか。 ・2-③-2-4 金融機関との営業力を活用したマッチング支援を継続実施する体制構築に関する記述がないように思えるが、そちらの進捗状況はどうなっているか。</p>
<p>2-④ 地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進するとともに、地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。国際地域学部では平成28年度に地域連携協議会を設置しアドバイザリーボードとして機能させるとともに、第3期中期目標期間を通じて全学的に自治体や企業、学校、諸団体との教育・研究の連携を推進し、連携授業および共同研究の連携先数を増加させる。 ＜国際地域学部＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
<p>2-④-1 地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進する。 ＜国際地域学部＞</p>	<p>2-④-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・連携先数の増加を数値で示す必要がある</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>2-④-2 地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。 <国際地域学部></p>	<p>2-④-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・良好であると見受けるが、具体的な増加がわかるような数値的エビデンスは示せないものか。</p>
		<p>2-④-3 国際地域学部では平成 28 年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させる。 <国際地域学部></p>	<p>2-④-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

別添 1

【グローバル化】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 国際通用性の高い世界に開かれた大学に改革し、世界で活躍できる高度専門職業人を育成する。</p>	<p>1-① 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第2期中期目標期間末と比較して20%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント） ・第2期末の88大学・機関から、169大学・機関と20%増を大きく上回る約92%の増加を達成している。オンライン授業システムを用いて海外の講師によるセミナーを実施した。</p>
	<p>1-①-1 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第2期中期目標期間末と比較して20%増やす。 <国際センター> <全学グローバル人材育成推進委員会></p>	<p>1-①-1-1 (1-①-1-1-1~4) 1-①-1-2 (1-①-1-2-1~3) 1-①-1-3 1-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント） ・第2期末の88大学・機関から、169大学・機関と20%増を大きく上回る約92%の増加を達成している。 オンライン授業システムを用いて海外の講師によるセミナーを実施した。 ・コロナ禍の中で21機関との間で協定締結・更新を実施し、進捗は順調と思える。クレムソン大学との間の Viertual Exchange を実現していただきたい。さらに、4この中期計画の評価結果（4年目終了時評価）を上げられるような、優れた成果を期待したい</p>
	<p>1-② 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心として、外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備、ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築、ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充、外国語による情報発信の強化を推進し、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第2期中期目標期間末と比較して、それぞれ15%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント） ・世界的な新型コロナウイルスの感染症拡大により、令和2年度に続き、令和3年度においても交換留学の受入・派遣と短期派遣プログラム等の実施が中止され、正規生の受入れのみとなったことに起因している。 ・コロナ禍の中で、KPI の達成が難しいことは十分理解でき、その中で様々な取組みがなされており、第4期に繋がるのが期待できる</p>
<p>1-②-0 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心とした次の具体の取組により、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第2期中期目標期間末と比較して、それぞれ15%増やす。 <国際センター></p>	<p>1-②-0-1 (1-②-0-1-1~5) 1-②-0-2 1-②-0-3 1-②-0-4 1-②-0-5</p>	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント） ・世界的な新型コロナウイルスの感染症拡大により、令和2年度に続き、令和3年度においても交換留学の受入・派遣と短期派遣プログラム等の実施が中止され、正規生の受入れのみとなったことに起因している。</p>	
<p>1-②-1 外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備を行う。 <国際センター></p>	<p>1-②-1-1 (1-②-1-1-1~4)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である。</p> <p>（コメント） ・コロナ禍において実施可能である交流を検討し、オンライン授業等の取組を実施している。</p>	

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			・ツイニングプログラムが継続実施されており、留学生を受け入れている
	1-②-2 ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築を行う。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞	1-②-2-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である。 (コメント)
	1-②-3 ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充を行う。 ＜国際地域学部＞	1-②-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である。 (コメント) ・当面は現行の協定内で、学位留学プログラム（International Business Communication, B.A.）を実施することとなった。 ・第4期のダブル・ディグリー制の構築に繋げていただきたい
	1-②-4 外国語による情報発信の強化を推進する。 ＜広報センター＞	1-②-4-1 1-②-4-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である。 (コメント) ・「6年間の具体の取組案」にある「中国語版 HP も併設する。」の扱いを検討する必要がある。
	1-②-5 学生の国際交流を一層盛んにするために、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第2期中期目標期間末と比較して、それぞれ15%増やす。 ＜国際センター＞	1-②-5-1～16	(検証結果) 保留 (コメント) ・世界的な新型コロナウイルスの感染症拡大により、令和2年度に続き、令和3年度においても交換留学の受入・派遣と短期派遣プログラム等の実施が中止され、正規生の受入れのみとなったことに起因している。 ・コロナ禍の中で KPI が達成できないことは十分理解できる
	1-③ 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用、現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数（サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を第2期中期目標期間末と比較して20%増加させる。 ＜国際企画会議＞		(検証結果) 保留 (コメント) ・世界的な新型コロナウイルスの感染症拡大により、教職員のグローバル活動が制約されているが、オンライン等も含めた多様な方法によって、個別の教職員の活動のみならず、より多くの教職員が参加できる活動等を通じて、活動数の増加を図る必要がある。
	1-③-1 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用を行う。 ＜人事会議＞	1-③-1-1 1-③-1-2 (1-③-1-2-1～5)	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である。 (コメント) ・新型コロナウイルス感染症の影響により、クロス・アポイントメント制度を適用した海外の研究機関との人事交流等は中止している。
	1-③-2 現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数（サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を第2期中期目標期間末と比較して20%増やす。 ＜国際企画会議＞	1-③-2-1 (1-③-2-1-1～5) 1-③-2-2 (1-③-2-2-1～4) 1-③-2-3	(検証結果) 保留 (コメント) ・世界的な新型コロナウイルスの感染症拡大により、教職員のグローバル活動が制約されているが、オンライン等も含めた多様な方法によって、個別の教職員の

令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント（様式）

		(1-③-2-3-1~4)	活動のみならず、より多くの教職員が参加できる活動等を通じて、活動数の増加を図る必要がある。
	1-④ 単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成31年度までに構築し、さらに大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。 ＜附属国際原子力工学研究所＞		(検証結果) 保留 (コメント) ・世界的な新型コロナウイルスの感染症拡大により、外国人研修生等の受入れが中止となっている。 ・原子力人材育成国際プログラムの確立のための文部科学省国際原子力人材育成イニシアティブ事業の活動やオンラインやレターによる情報発信が行われている。
	1-④-1 単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成31年度までに構築する。 ＜附属国際原子力工学研究所＞	1-④-1-1	(検証結果) 保留 (コメント) ・世界的な新型コロナウイルスの感染症拡大により、学生派遣の募集とTOEICを利用した英語試験が中止された。
	1-④-2 大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。 ＜附属国際原子力工学研究所＞	1-④-2-1	(検証結果) 保留 (コメント) ・世界的な新型コロナウイルスの感染症拡大により、外国人研修生等の受入れが中止となっている。
<中期目標2> 地域のグローバル化を牽引する核となる大学になる。	2-① 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業の実施、留学生の地域交流活動数の増加（第2期中期目標期間末と比較して20%増）、さらに、グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 ＜国際企画会議＞		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である。 (コメント) ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、留学生が参加できる地域イベントの多くが中止となった（実施は1件のみ）。大学が主催する地域イベントの開催の検討が必要（オンラインを含む）。 ・世界的な新型コロナウイルスの感染症拡大により、令和3年度も交換留学生の受入れが中止されたことにより、留学生数が大幅に減少した。
	2-①-1 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業を実施する。 ＜国際センター＞ ＜ライフサイエンスイノベーションセンター＞	2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である。 (コメント)
	2-①-2 留学生の地域交流活動数の増加（第2期中期目標期間末と比較して20%増） ＜国際センター＞	2-①-2-1	(検証結果) 保留 (コメント) ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、留学生が参加できる地域イベントの多くが中止となった（実施は1件のみ）。大学が主催する地域イベントの開催の検討が必要（オンラインを含む）。 ・世界的な新型コロナウイルスの感染症拡大により、令和3年度も交換留学生の

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

				受入れが中止されたことにより、留学生数が大幅に減少した。
	2-①-3	グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 ＜地域貢献推進センター＞	2-①-3-1 2-①-3-2 2-①-3-3 (2-①-3-3-1～4)	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である。 (コメント) ・新型コロナウイルス感染症の影響により、計画されていた事業は中止あるいは未定となっている。
	2-②	海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップや、外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 ＜国際企画会議＞		(検証結果) 保留 (コメント) ・世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップが実施されていない。
	2-②-1	海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 ＜産学官連携本部＞	2-②-1-1 2-②-1-2	(検証結果) 保留 (コメント) ・海外拠点を持つ地元企業との連携が確認できない。
	2-②-2	外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 ＜国際センター＞	2-②-2-1 (2-②-2-1-1～4) 2-②-2-2	(検証結果) 保留 (コメント) ・人材育成プログラムの年度内実施の可能性が確認できない。

令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

別添2

【業務運営】

中期目標	中期計画	関連する 具体の取組番号	令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標			
1 組織運営の改善に関する目標			
<中期目標II-①> 本学の諸機能を強化するため、ガバナンス機能の強化、人事・給与制度の弾力化、学内資源の戦略的配分等を推進する。	II-①-1 学長のリーダーシップのもと、本学の教育・研究・医療・社会貢献等の機能を強化できるようガバナンス体制の点検、見直しを継続的に行うとともに、IR体制を強化し、財務データの分析等により、戦略的・効果的な資源配分を行う。 <経営戦略課><財務課>	II-①-1-1 II-①-1-2 II-①-1-3	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)
	II-①-2 女性、若手、外国人・国際経験のある教員を積極的に登用し、教育研究の活性化を図る。また、構築した年俸制適用教員に係る業績評価等について検証するとともに、年俸制およびクロス・アポイントメント制度などの混合給与を促進する。なお、若手教員については、引き続き若手教員の雇用に関する計画に基づき、雇用拡大を推進し、若手教員の割合を平成32年度末までに医学部においては16%以上、工学研究科においては14%以上にそれぞれ向上させる。また、女性の管理職等の割合を平成33年4月1日までに役員11.1%に、管理職10.9%以上に向上させる。 <人事労務課>	II-①-2-1 II-①-2-2 II-①-2-3	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・中期計画に記載のある若手教員の割合についての記載がなく判断できない。 ・II-①-2-1について、国際公募実施による国際経験を有する者の実績についての報告いただきたい。 ・II-①-2-3について、今後も安定的にクリアできるよう具体的な計画を立てる必要があると思われる。
2 教育研究組織の見直しに関する目標			
<中期目標II-②> 本学の機能強化に繋がる教育研究組織の見直しを全学的視点から戦略的に推進する。	II-②-1 全学の機能強化や各分野のミッション等を踏まえ、教育研究等組織の見直しを行う。このうち、学部においては、全学的な視点から、第3期中期目標期間当初に地域創生に資する国際地域学部を創設する。大学院においては、平成32年度末までに教育学研究科を教職大学院に一本化し、実践型教員養成機能への質的転換を推進するとともに、工学研究科博士前期課程を改組し、学部一修士一貫教育を意識した教育課程を構築する。 <経営戦略課>	II-②-1-1 II-②-1-2 II-②-1-3 II-②-1-4 II-②-1-5 II-②-1-6	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・改組・新設した部局における具体的な成果を提示いただきたい
		3 事務等の効率化・合理化に関する目標	
<中期目標II-③> 事務局改革と人づくりを進め、事務局機能を強化する。	II-③-1 第2期中期目標期間に導入した経営品質活動の取組みについて、平成28年度に検証、31年度までに改善・改革を実施し、自主的・自律的な改善・改革活動に継続的に取り組む事務局づくりを推進する。 <総務課>	II-③-1-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・業務改革企画室からの提言を受け、具体的に実施した内容やその効果等も検証する必要があると思われる。
	II-③-2 事務局職員の職務能力の開発・向上に引き続き取り組むとともに、高度な専門性を有する多様な人材の確保やグローバル化に対応できる職員を育成するために、隔年毎に、職階別研修（係長、中堅職員、契約・パート）と職務における専門能力の向上のためのスキル別研修を実施する。 <人事労務課>	II-③-2-1 II-③-2-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・中期計画にはグローバル化に対応する職員の育成という点も記載があることから、その点に関する対応についての検討も必要と思われる。 ・新規採用事務局職員研修について、受講直後の意見を聴取しているが、具体的に来年度の実施計画を立てる際に、業務を経験した新規採用職員に対してあらためて意見を求める必要があると思われる。

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

			<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅱ-③-2-2 について、コロナによる影響が出始めて 2 年目であり、各大学ともオンラインでの開催に対応可能な体制が整備されていると思われる。コロナの影響により平時よりも各病院間での情報交換が必要な時期でもあるので、是非オンラインでの開催等検討し、相互のレベルアップに努めていただきたい。 ・来年度から第 4 期が始まるので、第 4 期中期目標・計画について十分教職員に周知願いたい
Ⅲ 財務内容の改善に関する目標			
1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標			
<p><中期目標Ⅲ-①> 自己収入を増加させ安定的な大学運営を推進する。</p>	<p>Ⅲ-①-1 教育研究診療活動等の充実・強化のため、必要な組織・体制の見直しを行い、自己収入を増加させて安定的な大学運営を推進する。特に、多様なステークホルダーを募金対象とする「福井大学基金」については、募金活動に関する取組みの強化を図り、寄附金を着実に増加させる。</p> <p><研究推進課></p>	<p>Ⅲ-①-1-1 Ⅲ-①-1-2 Ⅲ-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・Ⅲ-①-1-2 について、前年を下回っているものの、既に目標額の 70%以上を獲得して入る点は評価できる。昨年、今年とコロナ禍による学生支援を趣旨とした寄附が多いと思われるが、今後コロナ終息後も引き続き寄附いただける体制強化を期待したい。 ・Ⅲ-①-1-3 について、【成果】に記載の診療報酬請求額の金額の記載がないので、記入をお願いしたい。</p>
2 経費の抑制に関する目標			
<p><中期目標Ⅲ-②> 効率的な法人運営を行うため、人件費改革や管理的経費等の削減により経費の抑制を推進する。</p>	<p>Ⅲ-②-1 IR 機能を強化して、財務情報を戦略的に分析し、経費を抑制するとともに経費抑制のための業務改善に取り組む。また、エネルギー経費や施設・設備の更新経費抑制に向けた戦略を策定し、実施する。</p> <p><財務課><経理課><環境整備課></p>	<p>Ⅲ-②-1-1 Ⅲ-②-1-2 Ⅲ-②-1-3 Ⅲ-②-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・Ⅲ-②-1-4 について、【成果】に記載の後発医薬品シェア割合の記載がないので、記入をお願いしたい。 ・Ⅲ-②-1-2 について、コスト削減に向けたアイデアに係る取組みで成果がでているのか。特色ある取組として提示できないか</p>
3 事務等の効率化・合理化に関する目標			
<p><中期目標Ⅲ-③> 教育研究等の質の向上等のため、流動資産および固定資産の有効活用を推進する。</p>	<p>Ⅲ-③-1 資金（運営費交付金、授業料等自己収入、産学連携等研究費、受託事業費、寄附金における資金）の運用計画に基づき、資金を元本割れがないよう安全かつより利息の高い運用商品や金融機関を選択し、運用する。</p> <p><経理課></p> <p>Ⅲ-③-2 全学的に施設の有効な活用を促進し、計画的な維持管理の継続的な点検・見直しを行い、教育・研究の環境改善等を行うとともに、大学が保有する固定資産（施設等）を教育研究に支障のない範囲で学外者に有償で貸付ける等の有効活用を行い、自己収入の増加に繋げる。</p> <p><施設企画課> <経理課></p>	<p>Ⅲ-③-1-1 Ⅲ-③-2-1 Ⅲ-③-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・Ⅲ-③-2-2 について、HP 上の「施設利用のご案内」において進捗率が 20%となっているが具体的な取組内容が見えてこない。具体的に何をどこまでやったというところまで記載いただきたい。</p>
Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標			
1 評価の充実に関する目標			
<p><中期目標Ⅳ-①> 教育研究等活動の活</p>	<p>Ⅳ-①-1 教育研究等活動の更なる活性化や大学運営の改善に資するため、平成 28 年度末までに全学的に IR 機能を整備し、業務の分析・評価体制を充実・強化する。さらに、分析結果を基にした資源配分を行う。</p>	<p>Ⅳ-①-1-1 Ⅳ-①-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>

令和3年度進捗状況（中間）に対するIR室コメント（様式）

性化に資する適切な評価制度の構築を推進する。	<経営戦略課>		（コメント）
	IV-①-2 教育研究等の活性化に資するよう教職員の評価制度に基づく評価結果や優れた業績を人事評価上の処遇へ反映させるなど、一層の適正化を進める。 <人事労務課>	IV-①-2-1 IV-①-2-2	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・IV-①-2-2について、今後も引き続き検証、見直しを行っていただきたい。
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標			
<中期目標IV-②> 国立大学法人として、教育研究等の成果や大学運営の状況を積極的に社会に発信する。	IV-②-1 本学の教育研究等活動の状況や地域における役割等について、大学ポータル等を活用し積極的に社会に情報発信するとともに、外国語によるホームページの充実等により国際的な広報活動を展開する。 <広報室>	IV-②-1-1	（検証結果）
		IV-②-1-2	進捗状況が概ね良好である （コメント） ・国際リリースをコンスタントに実施しており、かつ、英語版HPに研究概要のコンテンツを掲載することで、英文HPのアクセス数が向上している。 ・英語版のHPへのアクセスが前年比で42%程度上昇したことについて、引き続き積極的な広報活動を期待する。 一方で、アクセス数が上昇したことによる効果についても検証願いたい。 ・IV-②-1-2について、zoomを用いた広報活動についての言及がなされていないが、取組は実施されたのか。 ・connect Ufukuiの具体的な成果をフォローいただきたい：是非特色ある取組として提示いただきたい
V その他業務運営に関する重要目標			
1 施設設備の整備・活用等に関する目標			
<中期目標V-①> 施設設備面のマネジメントを強化し、教育研究等環境の改善充実を推進する。	V-①-1 教育研究等の環境改善を推進するため、キャンパスマスタープランについて、随時学内委員会で検討を行い、必要に応じ修正する。既存施設の状況については、施設整備計画を基に、毎年度点検・見直しを行うことで、省エネルギーを含めた維持管理および施設整備を推進する。また、既存施設の有効利用を進めるため、学長のリーダーシップ等により、スペースチャージ制度によるスペースの確保と再配分を一層推進し、教育研究活動の活性化を図る。 <施設企画課>	V-①-1-1	（検証結果）
		V-①-1-2	進捗状況が概ね良好である （コメント）
2 安全管理に関する目標			
<中期目標V-②> 学生および教職員の安全管理を強化するための取組みを推進する。	V-②-1 学生の修学環境について、定期的な点検を行い必要な改善を実施するとともに、教職員相互による安全管理に関する自主的な点検・改善を推進し、教職員の安全管理に関する意識向上を図ることにより、法定の巡回点検による改善点の指摘事項を減少させる。 <人事労務課><教務課>	V-②-1-1	（検証結果）
		V-②-1-2	進捗状況が概ね良好である
		V-②-1-3	（コメント）
		V-②-1-4	・定期的な点検を行い、適宜必要な改善を実施していると思われる。今後も点検を行い、危険度高い案件など優先順位をつけ改善していただきたい。
3 法令遵守等に関する目標			
<中期目標V-③> 法令遵守等を徹底するとともに、危機管理機能の強化を推進する。	V-③-1 監事の権限強化に伴い、サポート体制を充実させる。さらに、法令遵守（コンプライアンス）並びに公的研究費の不正使用防止のための教育や研究活動の不正行為防止のための研究倫理教育を着実に進め、教職員の受講状況や理解度を把握し、教育の受講状況を部局ごとに公表するなど、組織的に浸透させる。また、危機管理体制の強化のため、経営上のリスクマネジメントの観点から、定期的・継続的な点検を行う。 <監査室><総務課><研究推進課>	V-③-1-1	（検証結果）
		V-③-1-2	進捗状況が概ね良好である
		V-③-1-3	（コメント）

令和3年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント（様式）

	V-③-2 情報セキュリティの維持と強化に向け、利用者の意識向上と情報セキュリティ体制の充実強化を行う。 < 学術情報課 >	V-③-2-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・研修の受講率や理解度等の確認及び検証も行うことも必要と思われる。
--	---	---------	---